



2004年9月19日(日)「旧正丸峠と二子山ハイキング」に出かけました。西武秩父線の正丸駅から歩き始め、旧正丸峠を目指します。この峠は、昔、歩いて越える幹線道路でした。車社会になり、正丸峠を越える道が出来、さらに、正丸トンネルが開通しました。かつての幹線道路は、ハイキングコースとして利用されることになったわけです。9月も後半というのに、この日は今年の猛暑が帰って来たような暑さでした。さほどの登りでもないのに、体温が上昇してすぐに汗だく。いつも以上にこまめに休憩をとり水分補給を心がけます。沢を渡る丸太で作られた橋、山の斜面のやせた細い道、倒木でふさがれた場所などなど、ちょっとした探検気分を楽しめます。

涼しい、旧正丸峠で昼食を摂り、さて二子山...(?)二子山への分岐点に到着した時(もしかしたらずっと前に)これで十分。心も身体も二子山方面には向かっていませんでした。国道歩きで芦ヶ久保駅を目指します。そして、駅前の酒屋で乾杯！いやぁ～暑かったネ！



すでに二子山の影は薄く

ハイキングの前日、ガイドブックを読みました。歩行時間5時間というのは結構長いなあ。今年に入ってこんなに長い時間のハイキングは行ってないしなあ。しかも、ガイドブックに“ここでは余力を駆って二子山をも越え、芦ヶ久保駅に下るプランとしたが、正直いっていささか気分的にきつい。横瀬川沿いの国道を、のんびり駅へと歩くのもよいだろう”とあります。それもありがたな。

さて、当日7時45分、八王子駅横浜線ホームに集合したのは、小野さん、桜井さん、加藤さん、宮部夫妻、板垣さん、町田の7名。脚の調子が思わしくない宮部香与子さんは、今回のコースを歩き切れるか心配な様子。久しぶりの板垣さんも同様。二子山をカットして、国道歩きで駅へ向かうエスケープルートがあることを説明します。説明しながら、割とその気になっていた(？)でも、旧正丸峠があまりにももの足りなかったら、ゆっくり二子山へ行くものありだし。

意外な暑さも加わり

8時1分の八高線に乗り、東飯能で西武線に乗り換え、9時27分正丸駅に着きます。駅前広場にある標識は“伊豆ヶ岳・正丸峠”で“旧正丸峠”への案内はありません。念のため駅員に聞いたのですが、帰ってきた答は、正丸峠への旧道の案内でした。その間、小野さんと桜井さんは、売店でコーヒータイム。



9時50分、ガイドブックの案内通り、国道299号線に出て、左方向(秩父方面)に向かって歩き始めます。すぐに、“旧正丸峠”への看板があるということなので、注意しながら歩きます。5分ほどで標識を発見！電信柱に小さな看板があり、“旧正丸峠・正丸峠・刈場坂峠”とありました。話に夢中になっていたら見逃してしまいそうな案内です。国道を離れ、左下の細い道を下ります。いかにも昔からこの場所に住んでいるといった雰囲気漂う民家の中を進みます。右を流れる川と分かれ、左に上り始め、最後の民家から、未舗装の山道に変わりました。それにしても暑くて、杉林の中を歩き始めて5分、国道と分かれて15分、休憩をとります。少々涼しくなった9月、今日の暑さは身体にちょっときびしい感じがします。

再び、杉林の中のなだらかな山道を進みます。15分もすると再び体温が上がり、水分補給の休憩をとります。「また休憩？今日はやさしいね」と小野さん。“こんな調子では二子山は、やめたほうがよいかも？”こう思うと“旧正丸峠を目指して歩き、あとは下るだけ”と気が楽になります。これは、町田の頭の中のこと。でも、みんなの頭の中もきっと同じ(？)

まるでアスレチックガーデン

それにしても、単調な峠越えだったらつまらないなあと思っていると、コースに変化が。小さな沢が現れ、沢を渡る丸太の橋がかかっています。丸太が適度に腐っているようで、弾力が出ていてしかも滑るのです。ちょっとしたスリルがあっておもしろいのです。ハイキング





コースと沢が何度か交差する度に同じような丸太の橋で沢を越えます。その都度、同じように緊張感が身体の中を走ります。まるでアスレチックガーデンで遊んでみたい。次に現れたのは、沢に向かって山の斜面の杉が倒れ込んでいる場所。ダイナミックな自然を感じます。ここで沢から離れ、急勾配になった道を上りきると、正丸峠へ続く旧道に出ました。旧道を左へ少し上ると、右側に再び山道が現れました。ここで、休憩です。やはり、暑く、木陰を探して水分補給をします。10分ほど休んで身体を冷ましてから出発です。



峠で昼飯

再び、杉林の中のゆるやかな傾斜の上りが始まりました。このあたりの杉林は美しく、昔の旅人になったような気分に入ることができます。昔の人は飯能から秩父あたりまでは当たり前のよう歩いたのでしょうね。実は、この道、今年春に行った「関東シルクロード 飯能から秩父へ」のコースの一部なのです。正丸トンネルの中を走るのはどうも。かといって、旧道での正丸峠越えでは距離が長くきついということで、ここを走った（歩いた）のでした。町田は、車での伴走でしたので、正丸トンネルの出口付近で待機していました。ここを走ったのか……。

11時25分、旧道との交差点から約20分で旧正丸峠に到着しました。刈場坂峠と正丸峠を結ぶハイキングコースと私たちが歩く、正丸駅から芦ヶ久保駅を結ぶコースが交わる場所でした。私たちの進行方向左側に木段が上っていて、正丸峠への道。右側にも木段が上っていて刈場坂峠への道です。見晴らしはありませんが、風通しが良く涼しい場所なので、少々早い昼食とします。国道歩きを選べばこの先適当な場所はなさそうですし、計画通り二子山を目指すとも山頂到着は2時30分、ガス欠になってしまいそう。





刺激を受けても...

私たちが食事をしていると、正丸峠方向から高齢の男性ハイカーがひとり通過しました。彼は、この先、刈場坂峠、大野峠、白石峠を経て白石車庫バス停から小川町駅へ向かうということ。健脚です。大野峠といえば「丸山ハイキング」の時通過しています。白石車庫は、「大霧山ハイキング」の終点でした。ふ～ん。しばらくすると、やはり正丸峠方向から高齢夫婦のハイカーが通過しました。彼らは、刈場坂峠から関八州見晴台、高山不動尊を経て西吾野駅へ下るとのこと。「黒山三滝ハイキング」の時通った道です。疲れ果てた(?)奥さんは、「騙された」と言いながらも旦那について行きます。まさに人生そのもの...? 3人の刺激を受けながらも、“いざ二子山!”という気分には誰もならなかったようです。

まさか! コースアウト?

12時、いちおう二子山に向かって出発です。下り始めると、山栗がたくさん落ちていて、拾いたいところですが、もしも、二子山へ行くようなことになると、そんな時間はありません。そして、10分もすると、道が荒れ始め、コースアウトしたか? と不安になるほど。みんなに待機してもらい、町田は、先を確認しに行きます。荒れ果てた道は進むにつれ、ハイキングコースらしさを取り戻していました。みんなを待たせた場所へ戻り、出発します。どこを歩いたら正しいのかわからないくらい広がった道は、ハイキングコースらしくなったと思うと、今度は、山の斜面で、幅30センチくらいに狭くなり、おまけに倒木でふさがれていたりと変化に富んだ道でした。さらに、しばらくすると、両側に丸太が打ち込まれていて遊歩道状態になり、それが終わると、未舗装の林道になり、舗装路に変わります。



二子山カット!

12時40分、“追分の道標”に到着しました。左後方に上る山道が二子山への道です。直進すると、国道299号線で芦ヶ久保駅へ向かう道です。桜井さんを除いて、みんな直進希望でした。「丸山ハイキング」の時も、桜井さんを除いて“日向山”のカットを希望したのでした。桜井さんゴメンなさい。直進すると、間もなく正丸峠への旧道にぶつかり、右折します。そして、国道299号線に出て左折して、のんびり国道歩きで芦ヶ久保駅を目指します。途中、丸山に向かう登山口を通り、「駅まで随分ありますねえ」なんて。アスファルトの照り返しを感じながら歩き、目的地は、芦ヶ久保駅ではなく、国道右側にある、「丸山ハイキング」の最後に寄った酒屋!あの時、小野さんが塩の恩人に再び会った酒屋です。



酒屋の出会い

運命の道標から約1時間、なつかしの酒屋に到着します。缶ビールを購入すると、酒屋の隣の土間にテーブルと椅子があり、「よかったらここでどうぞ」お言葉に甘えて、ここで乾杯!そこへ、公務員を定年退職したばかりという男性がワンカップ片手に乱入(?)国と妻への不満をぶちまけていると、芦ヶ久保駅前の“道の駅”の駐車場から彼を呼んでいます。彼は、にこやかにそれに答えて、あわてて酒屋を出て行きました。彼の奥さんと子ども夫婦と孫が手を振っていたのです。なんだかんだいっても“かあちゃん”には頭が上がらない様子はかわいいものですね。



町田行弘	229-1103	神奈川県相模原市橋本 5-29-12 メゾン・アン・ソレイユ 201 042-773-7415
小野勝彦	194-0041	東京都町田市玉川学園 8-22-2 042-725-8403
桜井利子	194-0001	東京都町田市つくし野 1-32-17 042-796-9591
加藤純代	194-0033	東京都町田市木曽町 651-1 市営 1-201 042-727-8949
宮部忠和	192-0363	東京都八王子市別所 1-103-15 0426-78-0666
宮部香与子	192-0363	東京都八王子市別所 1-103-15 0426-78-0666
板垣実	194-0032	東京都町田市本町田 2577- ホ -22-101 042-793-1271

